

酒米白藤復活プロジェクト

農水省優良事例に

上原酒造など本県から唯一 西蒲区

新潟市西蒲区の「上原酒造」など3者で酒米「白藤」の復活、商品化に取

学生たちが酒の仕込み作業などに取り組む「白藤プロジェクト」は2009年2月、新潟市西蒲区



り組む「白藤プロジェクト」がこのほど、農林水産省が選定する「食と地域の『絆』づくり」の優良事例に選ばれた。本県から唯一の選定。関係者は「これからの取り組みの励みにしたい」と喜んでいる。

同プロジェクトは上原酒造のほか、長岡市の米穀販売会社「エコ・ライズ新潟」と東京家政大学（東京）が参加。「白藤」

は昭和初期ごろまで本県酒造米の花形として使用されたが、やがて栽培の

難しさなどから姿を消した。

2007年から始まったプロジェクトでは「白藤」の復活、活用に取り組んできた。栄養士などを志す同大の学生が、田植えから稲刈り、酒の仕込み、商品開発までを実施。これまでに「白藤」を利用し、ビールや菓子、化粧品などを商品化している。

今回、農林水産省では、農山漁村での地域活性化に向けた優良な取り組みを広く発信するため、全国80団体の公募から、20都道府県の23事例を選定。同プロジェクトは本県からただ一つ選ばれた。

上原酒造の松島智洋営業課長は「米や水を通じた、農業の原点のようなプロジェクト。食の安全が問われている中、未来を担う若者に参加してもらっていることも評価されたのでは」とし、

「この選定により、取り組みの輪がさらに広がってほしい」と話している。